

想い — 朴善化

二〇一八年二月六日(火) — 二五日(日) 午前十一時〜午後七時

金曜日のみ午後八時まで・月曜日休廊

【会期中、火曜日・土曜日・日曜日は作家が在廊していません。】

ギャラリー・パルク

朴善化(ぱくそな)は、二〇〇〇年に京都市立芸術大学美術研究所修士課程研究留学生として来日、二〇〇五年同美術研究所修士課程保存修復専攻修了、二〇〇九年同博士課程美術専攻(保存修復・領域修了)、以後もおもに日本・韓国で仏教絵画の制作・保存修復に携わっています。

古来、大陸や朝鮮半島から日本にもたらされた仏教絵画は、おもに信仰の場において人々の祈りの対象として、あるいは仏教の教義や思想、世界観を表わすものとして制作されました。それらには制作された時代の貴重な素材・高い技術など先人の知恵が込められ、今日まで大切に受け継がれてきました。しかし人々の祈りの対象として永い時間信仰の場にあった仏教絵画は、紙や布に膠(ニカド)を接着剤として天然の岩石などで描かれている物理的な特質から、常に傷みや破損・劣化にさらされてきました。それ故に仏教絵画は次の時代に伝え・残すため、保存・修復の技術も同時に発展してきたとも言えます。

朴は現在まで受け継がれてきた和紙や藍などの素材や材料、保存・修復の技術を熱心に研究する傍ら、生まれ育った国の文化財である韓国高麗時代から朝鮮時代に至る仏教絵画の模写にこだわって制作を続けています。朴は、描かれた線を手を持った筆で辿るなかで、その絵を描いた人の事を考え、その仏画を描いた場所や情景などを「想い」、それを共有しようとしている自分に気付くようになってきたと言います。また、それは自身を深く見つめるための「想い」の時間でもあるとも言います。

「絵はそれが成されるにあって、紙や筆、絵具などの材料と描き手の眼と手のそれぞれが必要不可欠であるといえます。朴はまず自身が納得のいく絵を描くために、多くの仏教絵画を自身の眼と手で確かめ、紙・道具・画材の違いを知り、描き手の線を模写することで追体験し、その技術と想いを知り研究を深めています。また、その中で絵を描くこと、それを次の時代に伝え残すことには、描き手だけではなく多くの人たちの想いや取り組みが必要であることを知り、それらの想いを含めた継ぐこと・残すことへの探求を続けています。

今日の美術にあって「描く・残す」という行為が、『今』という瞬間の私の想いや感性が消えてしまわないうちに、残し標す』ことに傾斜するなかで、『今を残すことが過去と未来を繋ぐ』ことに視点を据え、そこに「私」ができる範囲でひたむきに関わる朴の取り組みを見て、知ることができる本展では、「描くこと」「伝えること」が持つもうひとつの主体や本質を想つことができるのではないのでしょうか。

展覧会について

二〇〇〇年から今日までの十八年間、生まれ育った国の文化財である韓国高麗時代から朝鮮時代に至る仏教絵画の模写にこだわり制作を続けています。

韓国で暮らしていた時には、特に何の意識もしない「日常」であった故郷の風景、音楽、食べ物などは、言葉も通じず右も左も分からない未知の国で暮らすようになって、私の「想い」となりました。来日してしばらくの間、それらの「想い」は「韓国の何と同じだろうか」「何が違うのだろうか」と、日本で出会う様々な物や事を理解するための比較対象としての存在でした。しかし、言葉や日々の生活にも慣れ、特に不自由なく暮らせるようになってくるとともに、その「想い」は自分自身のアイデンティティであることを意識し始めました。

模写制作の対象としている韓国仏画についても、最初は単純に自分が韓国人だから描いて当然だと思い込んでいました。しかし、繰り返し仏画に描かれた一筋一筋の線を手を持った筆でたどっていきながら、その絵を描いた人の事を考えるときともに、その仏画を描いた場所や情景などを同郷の者として「想い」、共有しようとしている自分に気付くようになりました。つまり、私にとって韓国仏画を描いている時間は、自身を深く見つめるための「想い」の時間でもあります。

今回の展覧会では、私が自分探しとしての「想い」を込めてきた仏画を展示致しますので是非ご観覧下さい。

朴善化

略歴

朴善化 PARK SUNHWA

【略歴 研究業績】

- 二〇〇〇 京都市立芸術大学 研究留学生(日本画・模写)入学
- 二〇〇二 同大学 研究留学生(日本画・模写)修了
- 二〇〇三 京都市立芸術大学 美術研究科修士課程保存修復専攻入学
- 二〇〇五 同大学 美術研究科修士課程保存修復専攻修了
- 二〇〇五 京都市立芸術大学 美術研究科博士(後期)課程美術専攻(保存修復・領域)入学
- 二〇〇九 同大学 美術研究科博士(後期)課程美術専攻(保存修復・領域)修了(博士号取得)

- 【展覧会】
- 二〇一七 ART FAIR SAPPORO (CROSS HOTEL SAPPORO | 札幌)
- 二〇一七 同大学 研究留学生(日本画・模写)展
- 二〇一六 同時代アンテナタン展(同時代ギャラリー開廊10周年記念)同時代ギャラリー | 京都
- 二〇一五 風山荘(同時代ギャラリー)
- 二〇一五 紡く(同時代ギャラリー)
- 二〇一五 神戸アートマルシェ2016 オリエントアルホテル | 神戸
- 二〇一四 ART BUSAN 2016 (ART BUSAN | 韓国)
- 二〇一四 個展(同時代ギャラリー「アージュ」)
- 二〇一三 ARTSHOW釜山 2014年 (ARTSHOW釜山 | 韓国)
- 二〇一三 織・糸(同時代ギャラリー)
- 二〇一三 藍の会展(津田画廊 | 京都)
- 二〇一三 記憶・朴善化展(同時代ギャラリー)
- 二〇一〇 同時代ギャラリー企画展「も(の)こ(と)わ(の)ま(の)真(ま)ま(ま)真(ま)模(ま)写(ま)作(ま)品(ま)」(同時代ギャラリー)
- 二〇一〇 韓国ソウル佛敎中央博物館招待展「ま(ま)真(ま)模(ま)写(ま)作(ま)品(ま)」(韓国ソウル佛敎中央博物館 | 韓国)
- 二〇一〇 韓国通度寺博物館招待展「ま(ま)真(ま)模(ま)写(ま)作(ま)品(ま)」(韓国通度寺博物館 | 韓国)
- 二〇一〇 アルン展(京都市立美術館 | 京都)

【受賞歴】

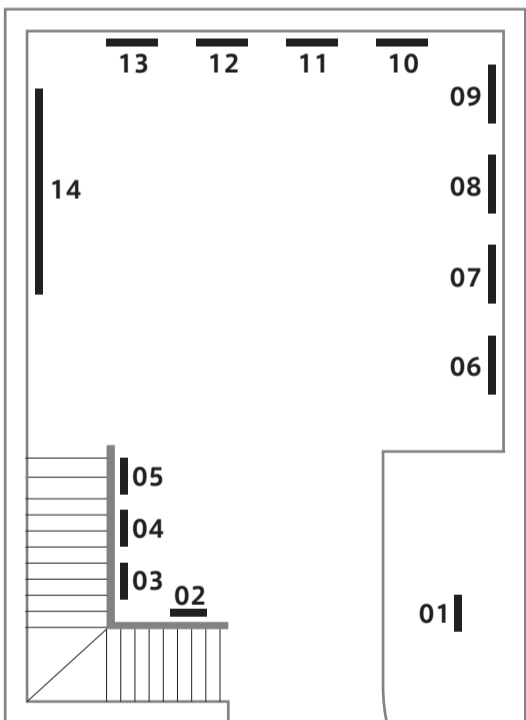
- 二〇〇五 京都市立芸術大学制作展(同窓会賞)
- 二〇〇四 『楊柳観音図』・水月観音図(大和文華館所蔵) 模写
- 二〇〇四 京都市立芸術大学制作展(奨励賞)
- 『五色鸚鵡図巻』ボストン美術館所蔵 模写
- 【パブリックコレクション】
- 二〇〇七 順天市松廣寺聖賢博物館 『松廣寺十六祖師眞影 模写』
- 二〇一三 向日市向日神社 『雲龍図』
- 二〇〇九 韓国ソウル佛敎中央博物館 『紺紙銀泥不空羼索持衆真言経 卷十三变相図 模写』
- 二〇〇八 韓国廣徳寺 『白紙墨書妙法蓮華経 卷三变相図 模写』
- 二〇〇五 株式会社・京都銀行 『紺紙銀泥大方広仏華嚴経貞元本卷三十四变相図 模写』

展示作品・資料

使用している基底材

- 岩絵具「放光堂・京都」
- 金泥「堀金・京都、東洋金箔・韓国」
- 藍「紺九・滋賀」
- 美濃紙「草紙工房・岐阜」
- 美濃紙「長谷川和紙工房・岐阜」
- 韓紙「張紙房・韓国」

二階展示室



03 妙法蓮華経第一(部分)(高麗時代・十四世紀末) 模写

二〇一七 紺紙、金24K
美濃紙(藍染・紅花染)、金泥

04 大方廣佛華嚴経世主妙嚴品变相図(高麗時代・一三五〇年) 模写

二〇一七 紺紙、金24K

經典の見返しや本文に描かれ、その内容を絵解きする絵画である「経絵」のうち、特に経巻の巻頭に描かれたものを「見返し絵(みかえし絵)」と言つ。

釈迦の死後その弟子が仏法を広く伝播するために釈迦の教えを書き写した写経はインドで最初につくられ、以後、仏教が広まったあらゆる地域で行なわれ、中国を経て韓国、日本にも伝えられた。仏教の教えを広めていく上で、写経の持つ意義は大きかったが、写経を行うこと自体が、あたかも伽藍や仏像を飾るように、荘嚴供養する信仰の活動であるとされる側面を持つようになってからは、墨書より荘嚴さが増す金泥や銀泥で筆写が行われるようになった。さらに、その金色と銀色をより引き立てて見せるために、その基底材に白紙より高価な紺紙、紫紙、褐紙などの染色紙が使用され豪華版の裝飾経が統一新羅と高麗時代を通じて流行した。本作は藍の貯められた甕の表面にできる泡(藍華)を集めたもので染められた美濃紙に金泥により描かれている。

05 妙法蓮華経第一(部分) 模写

二〇一七 褐紙、金24K

クヌギ・トングリを拾い集め、皮を煮出した染液を刷毛染めした美濃紙を使用。

06 僧(トルバアントユタ壁画八世紀) 模写

二〇〇三 ニューデリー博物館所蔵

新疆ウイグル自治区にある古来シルクロードに沿う東西交通の要地・トルバアンにある障壁画の模写。胡粉を使って下色をつくっている。

07 文殊菩薩

二〇一七 絹(天然岩絵具、金24K、藍、臙脂綿、うこん)など
韓国の手織絹、金泥

08 竹林寺世尊掛仏幀(朝鮮時代・一六三二年) 復元模写

二〇一七 韓紙、膠、天然岩絵具、金24K、墨、臙脂綿、うこん、など

全羅南道・羅州市にある縦五一四、横二七五センチにおよぶ掛仏(法会をおこなうため屋外に掛けて用いる仏画)をおよそ二五%ほどに縮小して描いている。竹林寺掛仏は、韓国に現存する七〇数点の掛仏の中で最も古い掛仏。

【臙脂綿(えんじわた)】とは、インド、ミャンマーなどアジアの南方地方に生息するラクカイガラムシの分泌物より抽出した色素を顔料化して綿に染み込ませたもので、これを生臙脂(きえんじ)ともいう。日本には奈良時代頃から輸入され、昭和初期には友禅染や紅型(びんがた)染にも用いられた。綿は円盤状に加工されているがこれは輸送に適するためと考えられる。現在では、古来の製造法が伝わっておらず、貴重な色料である。

09 法隆寺金堂壁画 六号観音図(部分) 模写

二〇〇一 美濃紙、天然岩絵具

10 妙法蓮華経巻第七(高麗時代・一三八五年) 模写

二〇一七 韓紙、金24K
韓紙、金泥

02 自在主童子善知識

二〇一七 紺紙、金24K

藍染した美濃紙に描かれた金泥の線は、描いた後からメノウ棒(メノウを先端につけた棒)でなぞり、磨いてある。磨かれると金箔を使用したような光沢が出る。

01 折り

二〇一七 紫紙、金24K

美濃紙(蘇芳染)、金泥
【蘇芳(すおう)】は赤紫色系染料。マメ科の小高木で、木芯部分から染料成分となるフラジレインを採り、媒染に灰汁やミョウバンなどを用いる。絹や麻布、和紙、木製品などの染色に使用される。染液にミョウバンを加えると赤く発色し、しばらくおくと沈殿する。江戸時代ではこれを臙脂(えんじ)の一種としている。

11 妙法蓮華經第一(高麗時代・十四世紀末) 模写

二〇一七 褐紙、金24K
美濃紙(クヌギ・ドングリ染)

12 大方広仏華嚴經卷第五十九(高麗時代・一三四一〜六七七年) 模写

二〇一三 紺紙、金24K
背景になっている薄い蒼は、藍の薄めた藍を張紙房(韓紙)に刷毛で三度ほど塗ったもの。絵がある紙は同じ藍を美濃紙に何十回も塗り重ねたもの。

13 妙法蓮華經卷第二(高麗時代・十四世紀末) 模写

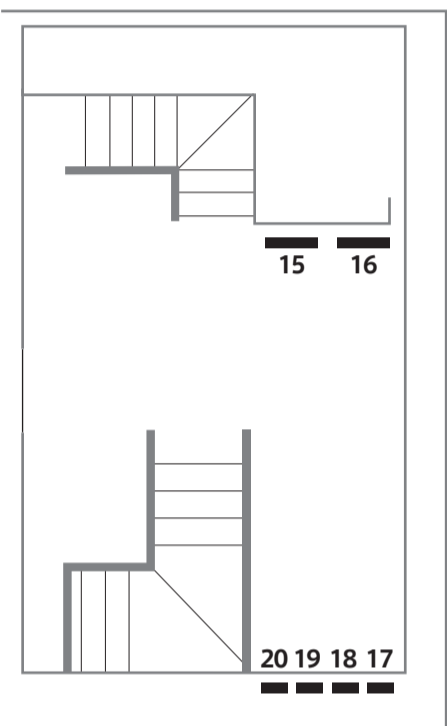
二〇一三 紺紙、金24K
美濃紙に藍絵具、青花、金沢金泥

14 廣徳寺 阿弥陀如来仏(朝鮮時代・一七四一年) 現状模写

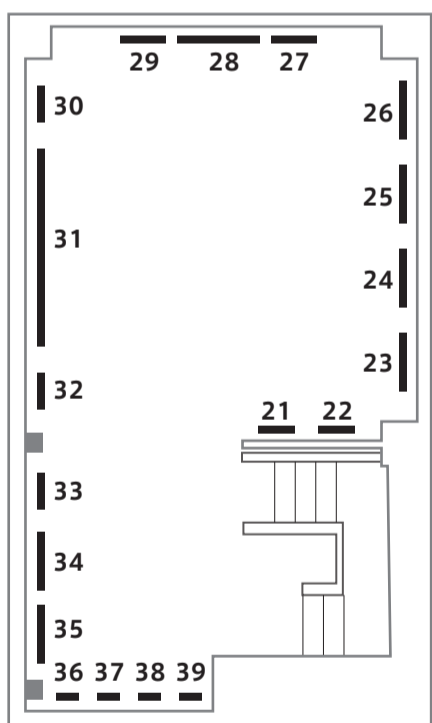
二〇〇九 廣徳寺所蔵・韓国
〔絵〕韓紙〔裏打〕美濃紙、天然岩絵具、藍華
韓国、忠清南道天安市東南区にある廣徳寺は、新羅の善徳女王の時代(六三七年)に慈蔵律師が創建したとされる。この三世仏幀「阿弥陀如来」の発願文等の画記によると、朝鮮時代一七四一年に奉納されたことが分かる。三世仏は、釈迦牟尼・薬師瑠璃光仏・阿弥陀仏を意味するもので、「東方・中央・西方」を象徴している。三世仏は一幅に描くこともあるが、この廣徳寺大雄殿三世仏幀のように三幅に分けて描くこともある。本作は、二〇〇六年から約二年半の歳月をかけて『阿弥陀如来図』を模写したもので、サイズはもろろん、画面の剥落などの状態まで模写されている。



三階展示室



四階展示室



15 祈り

二〇一七 紫紙、金24K
美濃紙(紫根染)、金泥

16 祈り

二〇一七 褐紙、金24K
美濃紙(クヌギ・ドングリ染)、金泥

17 文殊菩薩

二〇一七 紺紙、金24K
美濃紙(藍染)、金泥

18 普賢菩薩

二〇一七 紫紙、金24K
美濃紙(紫根染)、金泥

19 文殊菩薩

二〇一七 紫紙、金24K
美濃紙(紫根染)、金泥

20 祈り

二〇一六 紫紙、金24K
美濃紙(紫根染)、金泥

21 供養

二〇一七 紺紙、金24K
美濃紙(藍染)、金泥

22 新羅白紙墨書大方広仏華嚴經 变相図(統一新羅・七五五〜七五六年)

二〇〇六 韓紙 湖巖美術館所蔵・韓国
韓紙(化学染)、金泥

23 紺紙銀泥不空絹索神変真言經卷十三 变相図(高麗時代・一二二五年)

二〇〇五 紺紙、銀、金24K 湖巖美術館所蔵・韓国
韓紙(紙の原料である楮を藍染ののち紙漉き)、金泥、銀泥

24 紺紙銀泥大方広仏華嚴經 周本卷三十七 变相図(高麗時代・十四世紀)

二〇〇五 紺紙 湖巖美術館所蔵・韓国
韓紙(紙の原料である楮を藍染ののち紙漉き)、金泥

25 白紙墨書妙法蓮華經卷三 变相図(朝鮮時代・一七四一年) 模写

二〇〇六 韓紙、金24K
〔絵〕韓紙、金泥〔作品の周囲〕藍染紙(紙を藍染ののち、漉き返し/池加津夫氏)、砂子

26 大方広仏華嚴經卷第五十九(高麗時代・十四世紀) 模写

二〇一五 紺紙、金24K
美濃紙(藍染)、金泥
〔砂子(すなご)〕は砂子筒(すなご)・竹筒の片側に金網を張ったもの(を)通して細かくした粕のこと。またはそれを画面に疎く表現技法、および表現したもの。替水(ごうさ)・膠と水とミヨウバンをませた液を引いた画面に疎き、定着させている。

27 釈迦三尊図 文殊菩薩(部分)(朝鮮時代・一七二四年) 復元模写

二〇一 韓紙、膠、天然岩絵具、金24K、墨、藍、臙脂綿など 松廣寺聖寶博物館
館蔵・韓国
韓紙に絵具

28 釈迦三尊図 釈迦如来(部分)(朝鮮時代・一七二四年) 復元模写

二〇一 韓紙、膠、天然岩絵具、金24K、墨、藍、臙脂綿など 松廣寺聖寶博物館
蔵・韓国
韓紙に絵具

29 釈迦三尊図 普賢菩薩(部分)(朝鮮時代・一七二四年) 復元模写

二〇一 韓紙、膠、天然岩絵具、金24K、墨、藍、臙脂綿など 松廣寺聖寶博物館
蔵・韓国
韓紙に絵具

30 大方廣佛華嚴經 普賢行願品(高麗時代・一三三二年) 模写

二〇一三 紫紙、金24K 湖林美術館所蔵・韓国
美濃紙(紫根染)、金泥、砂子(金、プラチナ)

31 大方廣佛華嚴經 世主妙嚴品五三善知識(高麗時代・一三五〇年) 模写

二〇一七 紺紙、金24K
韓紙、和紙(藍染)、藍絵具、金泥
韓国国立中央博物館蔵の「大方廣佛華嚴經 世主妙嚴品 五三善知識」の模写。「華嚴經」の末尾に収録されている「入法界品」には、善財童子が文殊菩薩に促されて悟りを求める旅に出発し、五三人の仏道の仲間・師を訪ねて回り、最後に普賢菩薩の元で悟りを得る様が描かれている。善財童子が訪ねた第一番目の善知識は文殊菩薩であり、その後、菩薩・比丘比丘尼・長者・良医・優婆夷・仙人・婆羅門・國王・夜天など多岐にわたる善知識に出会い第五番目が弥勒菩薩、第五四番目に再び文殊菩薩そして最後に五番目に普賢菩薩の元で悟りを得たとされています。この写経では、上記の五五像の前に昆盧遮那大自在天王、普賢菩薩摩訶薩など八像、後に法界塵數善知識、善財童子上根人の二像を加え、全部で六五像が描かれている。

32 梵網經菩薩戒經法合部(高麗時代・十四世紀) 模写

二〇一 紺紙、金24K
美濃紙(藍華染)、金沢金泥

33 大方広仏華嚴經卷第五十九(部分)(高麗時代・一三四一〜六七七年) 模写

二〇一三 紫紙、金24K
美濃紙(紫根染)、金泥

34 日天像(一八四八年) 模写

二〇一三 美濃紙、墨 京都市立芸術大学資料館蔵

35 月天像(一八四八年) 模写

二〇一三 美濃紙、墨 京都市立芸術大学資料館蔵

36 祈り

二〇一七 紺紙、金24K
紙(藍染ののち、漉き返し/池加津夫氏)、金泥

37 祈り

二〇一六 紫紙、金24K
美濃紙(蘇芳染)、金泥

38 無心

二〇一七 紫紙、金24K
美濃紙(蘇芳染)、金泥

39 供養

二〇一七 紺紙、金24K
美濃紙(藍染)、金泥